

「患者様ファースト」を基本理念に、地域の眼科医療に貢献

JR恵庭駅西口に直結する恵庭メディカルプラザ3階という好立地に位置する「えいわ眼科」。鉄道でのアクセスが良く、また、駅西口には恵庭メディカルプラザ共用駐車場も完備。手術希望の患者には送迎車の対応も行っている（条件あり、要確認）。これらの取り組みが評判を呼び、恵庭市内はもとより、千歳市や北広島市、遠くは長沼町、安平町など、市外から通院する患者も急増中だ。

竹森智章院長は「患者様ファースト」を基本に、患者さんが自分の家族だったらというスタンスで、常にその方にとってベストな治療は何かを第一に考えた提案を心掛けています。また、当院での治療が難しいような症例も、彩光会グループの一員としてのメリットを生かし、本院の札幌かとう眼科と連携し、より質の高い医療の提供に努めてまいります」と話す。

道内でも数少ない神経眼科相談医 満足度の高い白内障手術が好評

診療は、竹森院長と吉本詠子医師（水曜・土曜を除く）の2診体制が基本。20年度からは新たに、緑内障治療の経験が豊富な相馬啓子医師が毎週水曜日を中心に診療に加わった。また、月に1〜2回程

度、加藤祐司彩光会グループ理事長による診察や手術も行う。診療内容は、白内障や網膜硝子体の日帰り手術をはじめ、眼科疾患全般に対応。白内障手術では、通常の保険診療による単焦点眼内レンズに加え、選定療養による多焦点眼内レンズも取り扱っている（選定療養Ⅱ手術や検査の費用は保険適応、眼内レンズの費用は自己負担）。乱視が強い症例では、いづれの場合においても、乱視矯正機能を持った眼内レンズを使用する。このほか、加齢黄斑変性に対する抗VEGF薬の注射治療、眼瞼けいれんに対するボトックス治療、涙目（流涙症）の治療では、鼻涙管閉鎖症に対する涙道内視鏡を用いた涙管チューブ挿入術を実施。難治性の流涙症に対して骨を削ってバイパスを作る涙のう鼻腔吻合術が必要な場合は、本院での治療を提案。角膜をコンタクトレンズで矯正する近視治療「オルソケラトロジー」（自費診療）や、レーシックでも不可能だった強度近視にも適応がある「フェイキック眼内レンズ（ICL）」（自費診療）などの最先端治療も積極的に導入。これらに加え、ドライアイの原因として注目されるマイボーム腺機能不全を改善する新たな治療法として、IPL（Intense Pulse Light）治療を導入。点眼でも改善がみられない難治性のドライアイに対する治

多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術が好評 一人一人の患者にとって常に最適な治療を提案

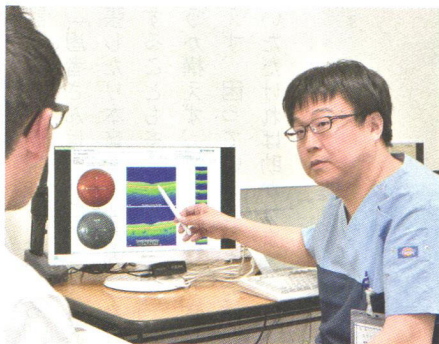


最新の白内障・硝子体治療機器や顕微鏡を導入。正確かつ安全で低侵襲な手術を恵庭市内で受けることができる。治療器具の大半は患者ごとにディスポ(使い捨て)製品を使用。その他にも空調管理から手術機材の滅菌・消毒に至るまで衛生管理を徹底する





ゆったりと座れる待合室にはモニターが設置され、表示される番号で自分の順番が分かる。別のモニターでは、眼の病気に関する解説やインフォメーションを配信



電子カルテやモニター画像を見ながら分かりやすい説明を心掛けている竹森院長



明るく広々と清潔感にあふれた検査室

新しいドライアイ治療の専門機器「PL」。治療は複数回行う(自由診療)。1回の治療時間は約10分程度



**最新の検査治療機器を備えた手術室で白内障や硝子体手術を実践**

院内には、各種レーザー装置や3次元光干渉断層計(OCT)など、最新検査機器を完備。中でもOCTは造影剤を使わず網膜や脈絡膜

の血管の状態を把握できるOCTアンギオグラフィ(OCTA)や、加齢黄斑変性や中心性漿液性脈絡網膜症などの診断に威力を発揮する眼底自発蛍光機能も備える。

同院の最大の特徴でもある手術室には、網膜硝子体手術と白内障手術を同時に行えるコンステレーションビジョンシステムの最新機種を完備しており、白内障や網膜硝子体の日帰り手術をはじめ、これまで札幌など市外の眼科を受診しなければならなかった治療が地元で受けられる体制が整っている。

20年には、白内障手術支援システム「Verion」と「ORAシステム」を導入。実際に使用する眼内レンズの度数決定や、乱視矯正のさらなる精度向上が可能となった。さらに、電子カルテを導入。各

療効果が期待される。また、最近社会的問題となっている、学童期の近視進行を抑制するマイオピン点眼の導入も開始した。

さらに竹森院長は、道内でも数少ない日本神経眼科学会認定神経眼科相談医の資格を持ち、視神経炎や、若年女性に多いバセドウ病に合併する甲状腺眼症などの診断・治療を得意とする。入院治療が必要な場合は、札幌医科大学を中心に患者が希望する医療機関を紹介。安心して頼れる存在だ。



理事長  
加藤 祐司氏

旭川医科大学卒業。同大眼科講師・医局長を経て、2011年札幌かとう眼科開院。日本眼科学会専門医。旭川医大眼科客員教授。札幌医科大学非常勤講師。医学博士



院長  
竹森 智章氏

2005年神戸大学医学部卒業。札幌医科大学眼科入局。道内主要病院勤務を経て、17年すぎ眼科副院長、18年5月より現職。日本眼科学会専門医。日本神経眼科学会認定神経眼科相談医ほか



医師  
吉本 詠子氏

旭川医科大学卒業。稚内、名寄、釧路の各関連病院、釧路町の眼科クリニック勤務を経て、2018年より現職。日本眼科学会専門医



駅建物とビルが空中通路でつながっており外に出る必要がない。JR恵庭駅西口にビル共有駐車場完備

部署にモニターを設置、情報を共有することで作業の効率化、安全性の向上が図られている。「今後とも医療を取り巻く環境に常にアンテナを張りながら、最新かつ最善の眼科診療を導入し、地域の患者さんにとってベストな治療を提供していきたいと考えています。目に関してお悩みのことがあれば、ぜひご相談ください」と竹森院長。

眼科

医療法人社団 彩光会  
**えにわ眼科**

☎0123-32-6666

恵庭市相生町2-1 恵庭メディカルプラザ3階

診療時間 /  
平日 9:00~12:00 14:00~18:00  
土曜 9:00~12:00  
休診日 / 日曜・祝日  
最寄りアクセス /  
JR恵庭駅西口直結